



RESTLESS ASSEMBLY

レストレス・アセンブリ

朽techS 2013

Mature Content



Voilà votre mort, monsieur.

- ◆大鰐通りのバシリスク
- ◇漿を嗅ぎとるもの
- ◆重機の寵愛者
- ◇議事堂の停心官
- ◆重殻の擬龍
- ◇クラリモンドの死這い
- ◆始祖スフィンクス
- ◇血塗れ人鳥Ⅳ
- ◆吊り姫
- ◇四つ辻の収税鬼
- ◆幻燈師の急使
- ◇死せざる園丁

「でも、どうしても二度と踊らないの？」

笑いながら王女はたずねました。

「心臓が破れたからでございます」

と侍従は答えました。

すると、王女は顔をしかめ、あでやかなばらの花びらに

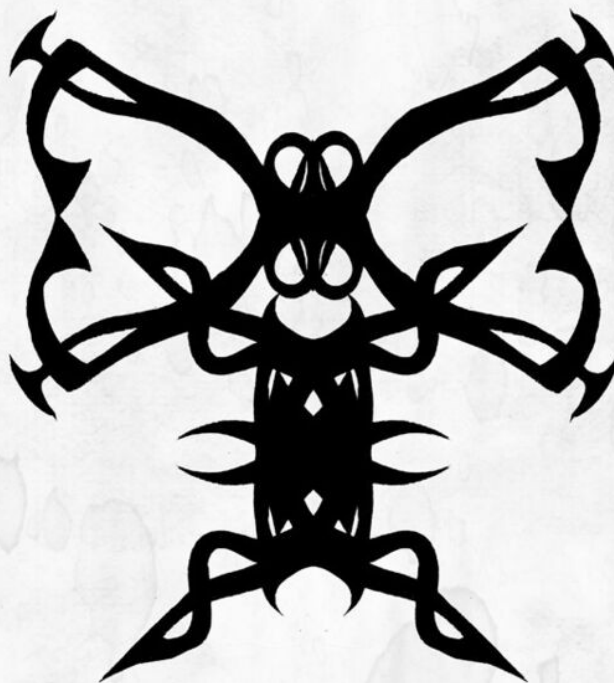
似たくちびるを、美しい軽蔑でゆがめました。

「これからさき、あたしのところへ遊びにくるものは、

心臓のないものにしてね」

と王女は叫ぶと、庭へ走り出しました。

オスカー・ワイルド『王女の誕生日』



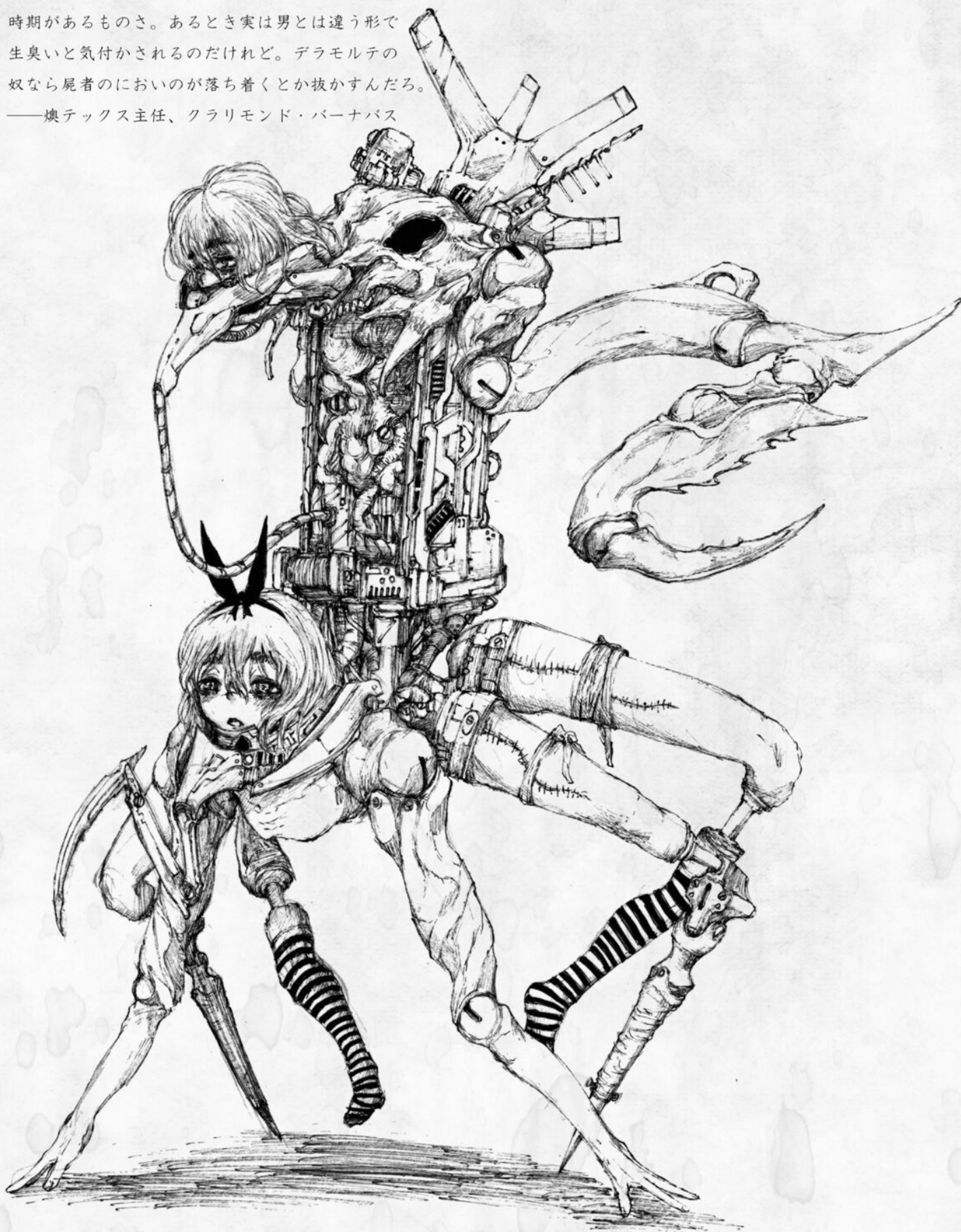


「死の明るい面を見よう」なんて歌もあったな。
“幕降りて” 綺麗さっぱり消えられるもんだと
信じてたんだけどね。彼女達を見ていると、
“死に永らえる” ってのはどんな気持ちか
考えちゃうよね、真夜中にあの軋むような
駆動音を聴いちゃうと余計。アンタもそうだろう？
——ジャン・ヴァルモー、バース連邦の“革命屋”

■ 漿を嗅ぎとるもの /Ichor Sniffer

誰にだって女の子の血のにおいは甘いと感じている
時期があるものさ。あるとき実は男とは違う形で
生臭いと気付かされるのだけれど。デラモルテの
奴なら屍者のにおいのが落ち着くとか抜かすんだろ。

——燠テックス主任、クラリモンド・バーナバス



■重機の寵愛者 / Favored Carrier

我々が生きる「冷たさ」とネクロテックの冷気は

本質的に異なるものだ。黒曜石の刃の先で

舞い踊る血液と体温は、失われていく

過程でその本質的善に燃える。

だが、奴らの冷気は何も奪わぬ。

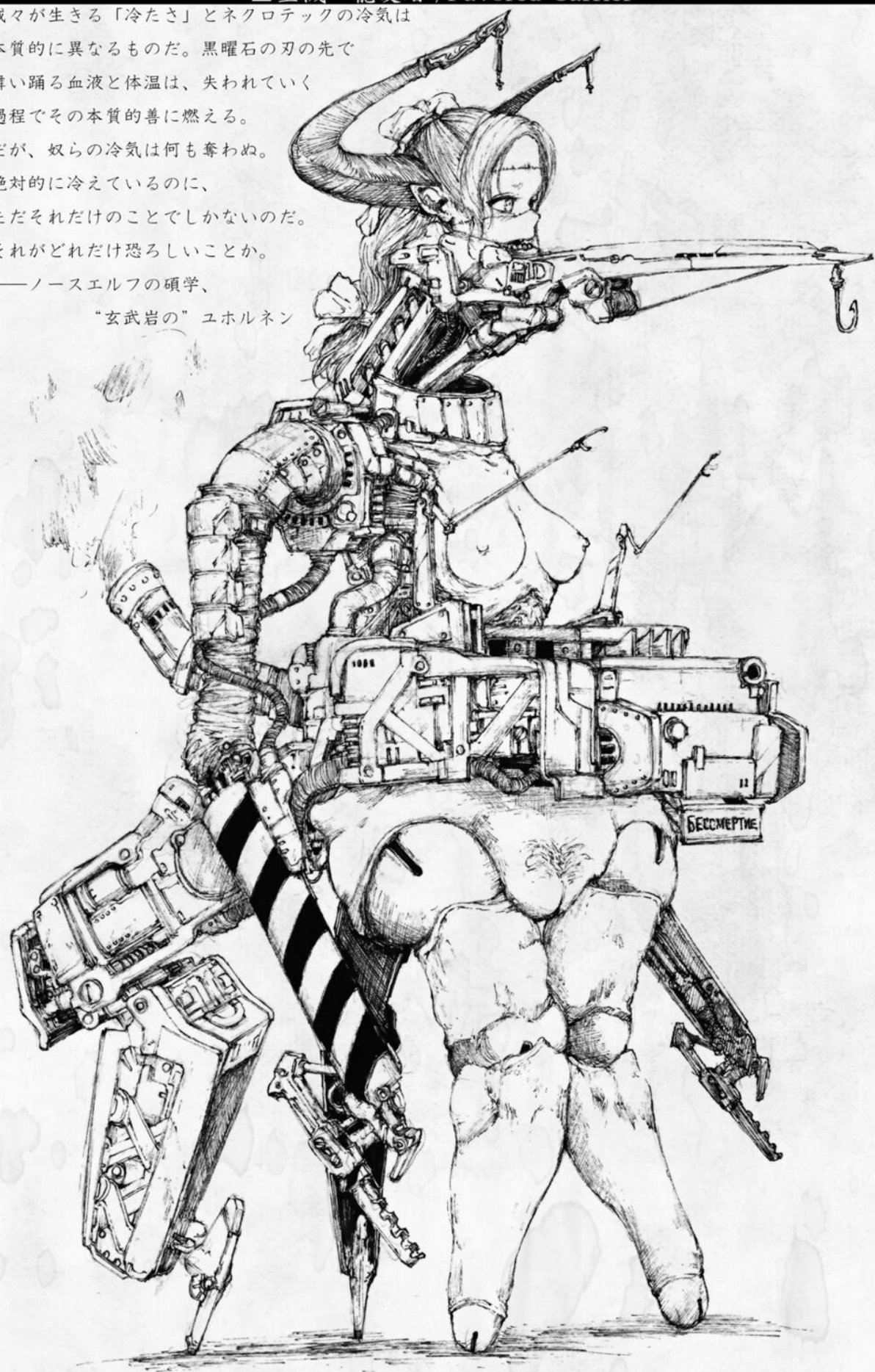
絶対的に冷えているのに、

ただそれだけのことでしかないのだ。

それがどれだけ恐ろしいことか。

——ノースエルフの碩学、

“玄武岩の”ユホルネン





眠りを知らぬもの
空の空なるを知らず
忘却を知らぬもの
たましいを知らず
——漿の騎士の詩



■重戦の擬龍/Armored Pseudo-dragon

技術供与と引き換えに一定の立場を得たバーナバスたちは、共和国の方針とは異なるコンセプトのネクロテックを製造するべく新たな研究組織「機テックス」を旗揚げした。名称からも分かる通り、この組織は共和国の技術官僚交歓会、通称ワテックスをモデルにしている。

ラシ・メザマレク財団（以下「MF」）の主要拠点はほとんどはバース連邦内にあったものの、新参者のバーナバスたちは財団の比較的外縁に位置する新カジェラ公国の支部に配置されており、共和国の影響力の及ぶ範囲から脱してしまっていた。

作業者、そしてデラモルテの「死せる刺客」から身を守るための努力を余儀なくされた彼らにとって機テックスは皆であり、また兵器工場でもあった。

——フーランド・ミカア

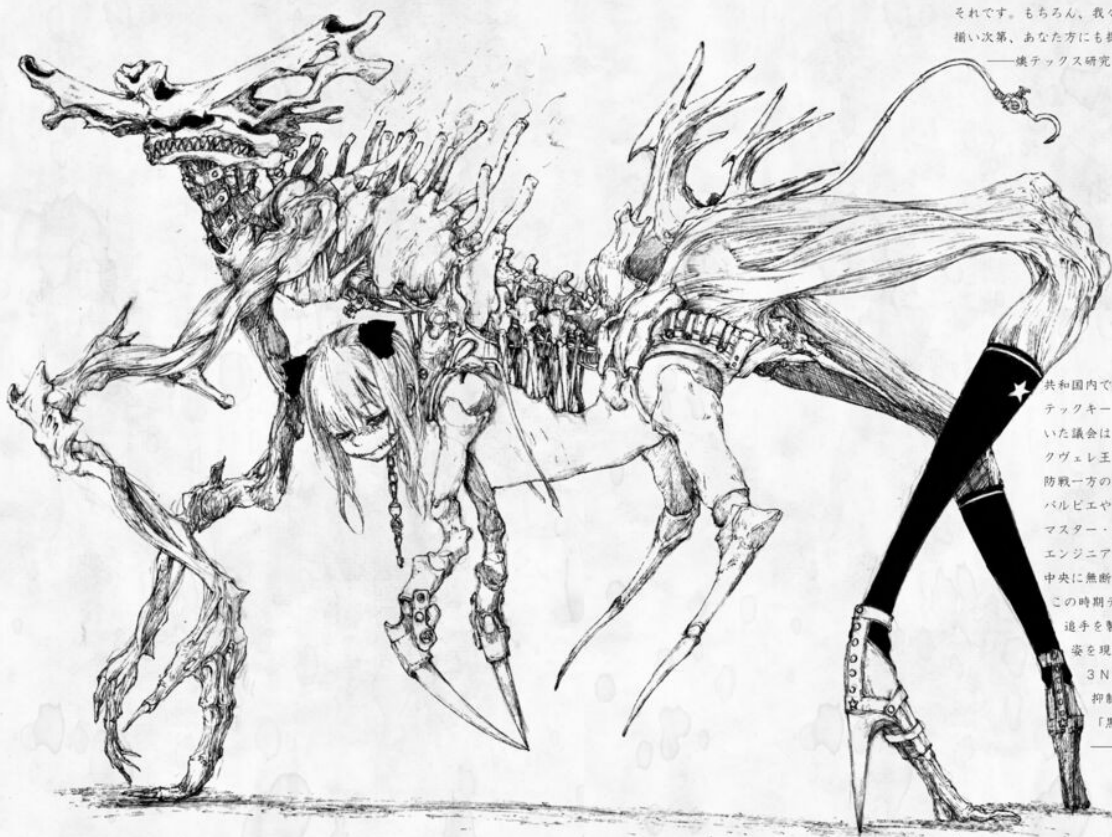
『ネクロテック・エンジニアリング』



闇が窓を染めぬ国でわたしが見たのは
人の目の奥に沈む夜の色だった
太陽が昇り沈む事実よりも先に
ひとは夜を己が内に持って産まれる
胎の中、光りなきところの安寧こそが
完璧な本当の夜なのであって
この世の夜はそれを思い出させるだけの
不完全なものではない！
私たちは存在という太陽に照らされて
逃げも隠れもできずにいる
常人たちが見つけ合うのは
互いの種の奥の暗渠
非存在へと落ちていく穴に
見いられているからだ
「自分の夜に選れないならば
せめて誰かの夜に飲まれたい」
という願いを込めて。

——グレイトローの詩人、“食食者”オールドー『塔都市百景』





ハンターを狩るハンターを造り上げるために、
我々は相当入念にデラモルテが放った異犬を
調べ上げました。その成果物が今ご覧になっている
それです。もちろん、我々の警備に使用する個体が
揃い次第、あなた方にも提供する予定です。
——壊テックス研究員、イラ・アルフレッドソン

共和国内で神出鬼没に破壊工作を繰り返す
テックキーパーに対して有効な対策を打てず
いた議会は、二正面状態を打開すべく
クヴェレ王国に講和を申し立てる。
防戦一方の政府に業を煮やした朽テックスの
バルビエやトッドリーナスといった武闘派の
マスター・ネクロテックたちは、混乱の最中
エンジニアたちの派閥を都合良く分断・再編し
中央に無断で辺境の工場を稼働させ始めた。
この時期デラモルテは数発的にバーナバスへの
追手を製造しつつ、ほとんど政治的な場
合を現さなくなっていた。これによって
3N派エンジニアたちの自己改造への
抑制がほとんど効かなくなったことが、
「黒い議事堂事件」へと繋がっていく。
——ミランダ・ベリシャ

『トーテンタンツ〜共和国戦史』



元々私はエリーゼ出身でね。

大学を出たあとまあ、色々あって傭兵として
クヴェレの国境で働いていたわけだ。それは
たくさんのネクロテックの頭を砕いたものさ。

それで、あるとき気が付いたんだよ、

あの金属板と骨に囲まれて

こちらを見ている眼の綺麗さに。

奥底に全く何も無いんだよ、

本当に、何んにも。

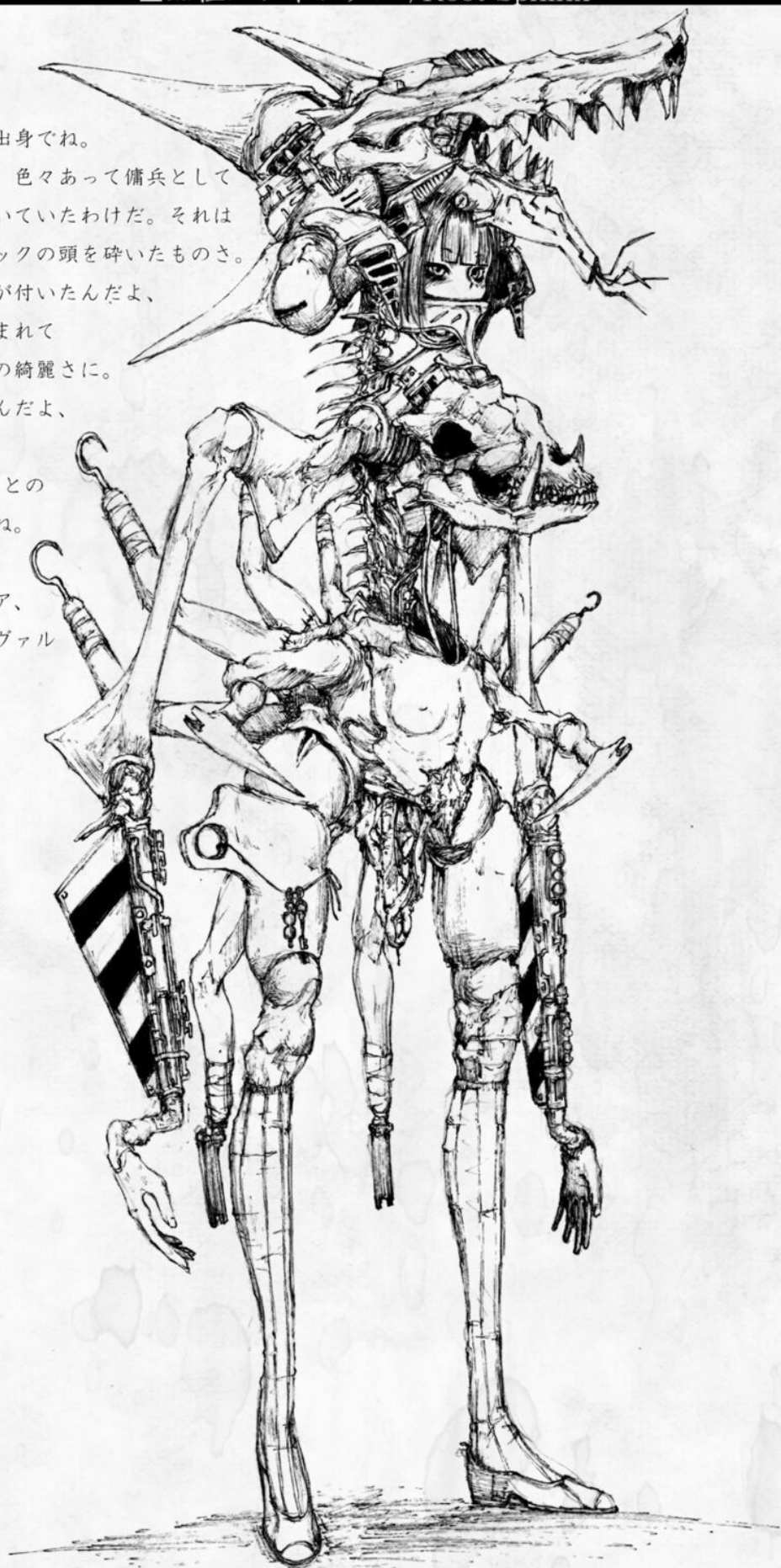
「見つめる」ということの

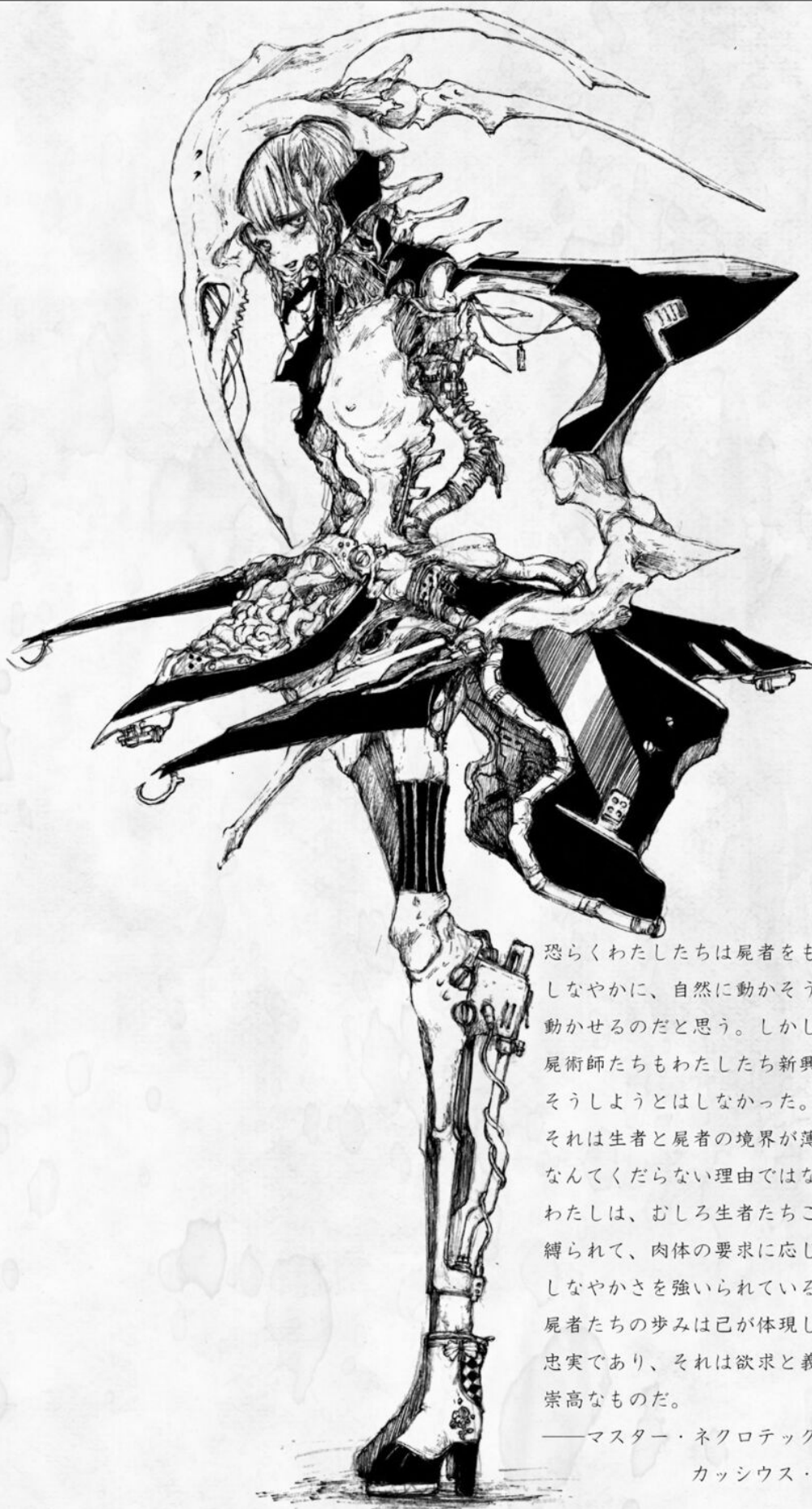
完璧な形だと思ったね。

それがきっかけさ。

——世捨てエンジニア、

オットー・ゴートヴァル





恐らくわたしたちは屍者をもっと
しなやかに、自然に動かそうと思えば
動かせるのだと思う。しかし、古からの
屍術師たちもわたしたち新興の屍体技術者も
そうしようとはしなかった。

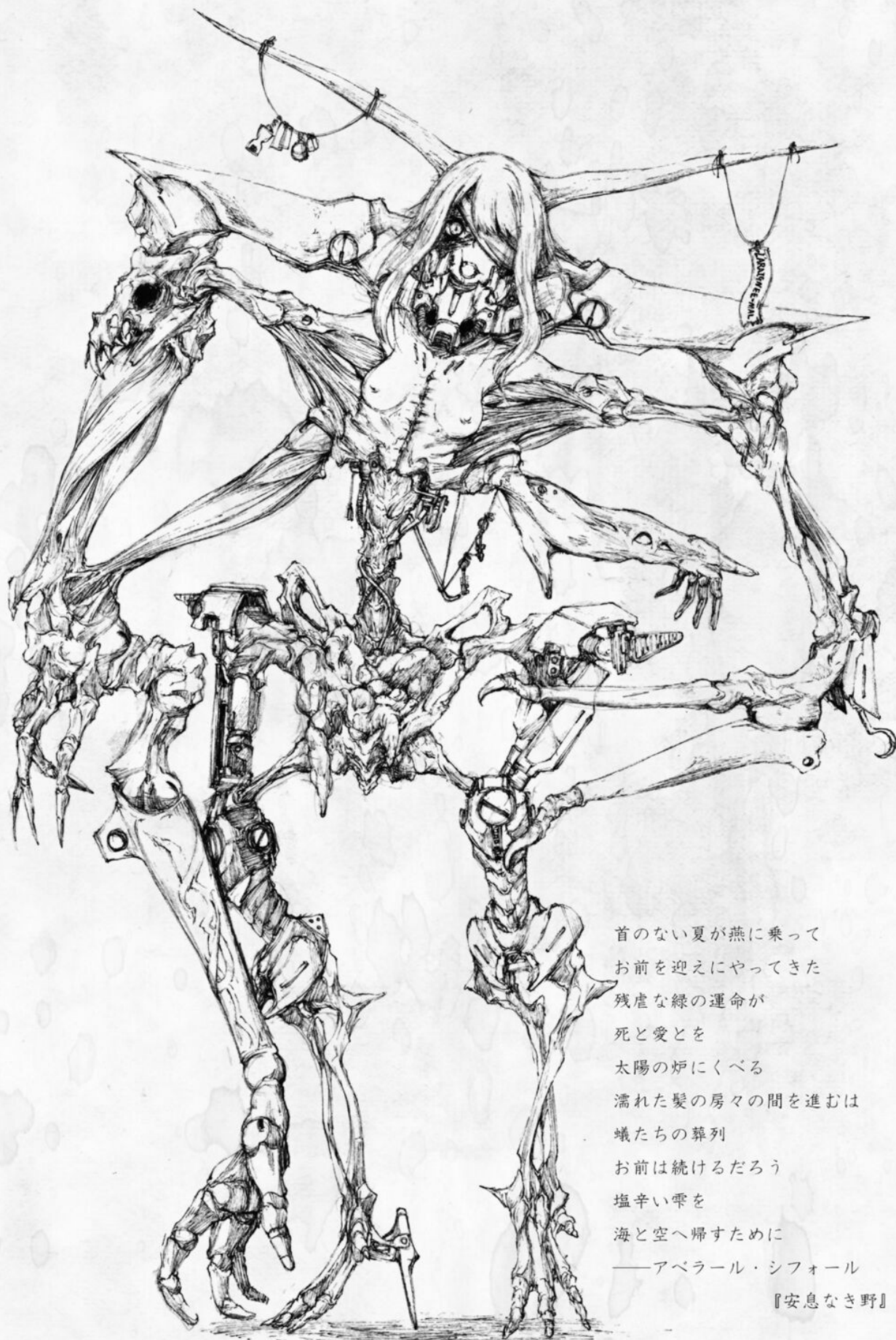
それは生者と屍者の境界が薄れるから、
なんてくだらない理由ではないのだ。
わたしは、むしろ生者たちこそ生命と存在に
縛られて、肉体の要求に応じて
しなやかさを強いられているのだと思う。
屍者たちの歩みは己が体現しているものに
忠実であり、それは欲求と義務が合致した
崇高なものだ。

——マスター・ネクロテック、
カッシウス・デラモルテ



彼女には熱烈なファンがいるんだ、本当だとも、
彼女に口付けせんばかりだったよ……
風に揺られてさ。

——飛び地の屍揮官、ルチオ・ディカネッレ



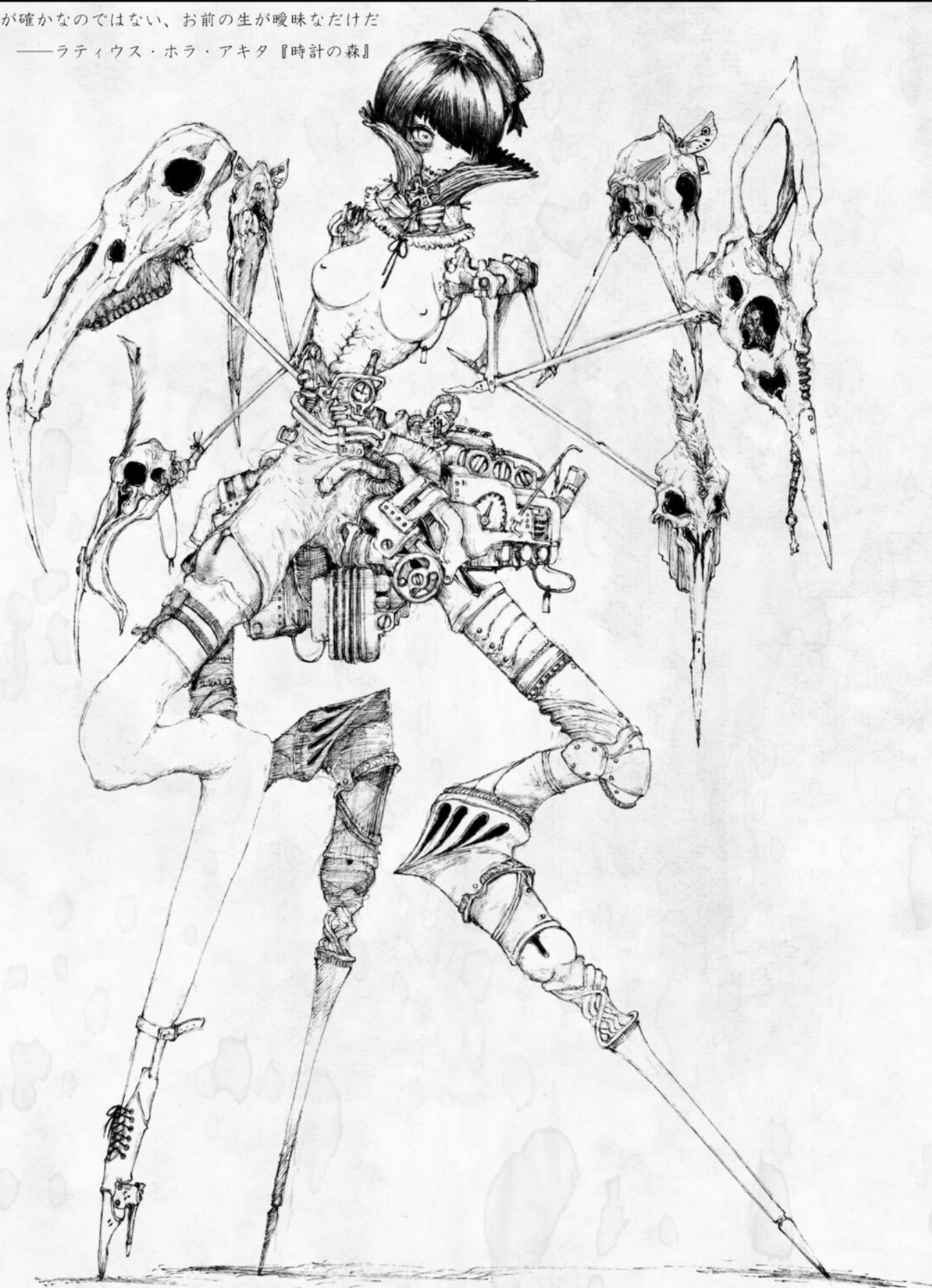
首のない夏が燕に乗って
お前を迎えにやってきた
残酷な緑の運命が
死と愛とを
太陽の炉にくべる
濡れた髪の毛の間を進むは
蟻たちの葬列
お前は続けるだろう
塩辛い雫を
海と空へ帰すために
——アベラール・シフォール

『安息なき野』

■ 幻燈師の急使 / Phantasmagorian's Courier

死が確かなのではない、お前の生が曖昧なだけだ

——ラティウス・ホラ・アキタ『時計の森』



■死せざる園丁 / Immortal Gardener

私たちは丘の上でじっと待った。辺りは静まりかえり、火と轟音の夜はまるですべてが嘘だったかのように明けつつあった。ただひどいにおいの煙と朝霧の混じったものだけが朝の光に抵抗していた。白く暈けた射光に浮かび上がる、“二度と動かぬ生者”と“動きを止めた屍者”の入り混じる光景は、凄惨さよりも虚ろさを、虚ろさの中にある安寧を思わせるものだった。

——新カジェラの退役軍人、エンゼイ・カジンスキー『回顧録』



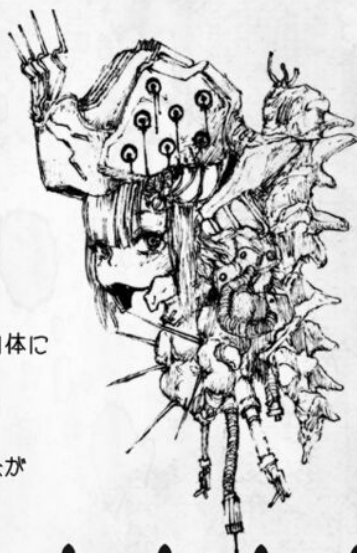
■ あとがき

◇同じような本を三冊。やろうと思えばやれるものです、飽きまえしなれば。
既刊と合わせると50体近くにもなりますので、読者の側でなんとなく分類や
系統図が作れるようになっていくかも知れません。描いている側はそれぞれの場
の気分でやっており、裏設定とかはないので、ご自由にお作りください。なんか
のゲームのコマの絵にしても良いですし TRPG『永い後日談のネクロニカ』辺りの
インスピレーション源としてなんかどうでしょうか（宣伝）。

屍少女を生産する“絶え間ない組み立て”それ自体屍者化されているのだろう
と思う反面、製造を指示する者にはそうせずにはいられない、そうしなければ
“落ち着かない”という生者らしい原理も働いていて。ジャンキーを取って
「ゾンビのようだ」と表現することがあるように、ひとつのことだけをやる、
ひとつのことしか頭にない、というところでは死んだように“活き”つつも
生きたまま死んでいる状態が成り立つのかもしれない。取って我慢する、
立ちすくんで色々なものの前で迷う、というのは生きてないときけないのです。
屍者の静止に苦しみはないでしょうし、常に動いている生者にもあるべき痛みが
失われているように思うのです。

……なんのこっちゃですね。

結局は自分の中のカワイイに
忠を尽くすしかないのであって、
その副産物として何か考えたり
見つかったりするわけです。
そうして作りだされた“かたち”に
どれだけ色々なものを投影し、また
読み取れるかが大事なのであってそれ自体に
何かを込めるつもりはないのです。
屍者は「死者」と違って虚ろですから、
丁度良い。それではまたお会いする機会が
ありましたら。さようなら。



奥付け

『レストレス・アセンブリ』

2013/5/5、COMITIA104にて発行

著者：メグリム・ハルヨ（朽 techS）

連絡先：haruyoi@hotmail.co.jp

<http://unicaschamber.web.fc2.com/>

pixivID=133923

印刷所：ねこのしっぽ（有）様



発行：ゴールデン・ゴブリン・プレス / 朽techS 出版部

D3220 ¥500

Techkeeper licensed NM-ID-38-ST-14



05799163376521



21677970182816

